

# さたけ散歩

第7号

◇次号予告◇

次回のテーマは「イザ、カブキザ 東銀座」

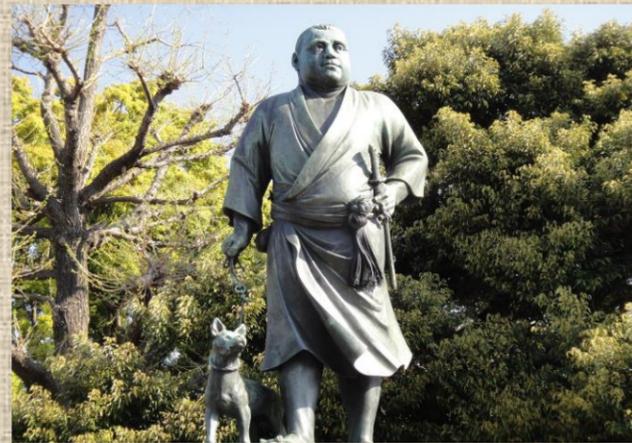
東京都中央区銀座を特集します。



西郷どんと上野の山 上野



上野公園 (東京都台東区)



都内でも有数の「桜の名所」として知られる東京都台東区の上野公園。正式名称は上野恩賜公園(うえのおんしこうえん)となっています。公園のシンボルとなっているのが、「上野の西郷さん」という愛称で親しまれている西郷隆盛(さいごうたかもり)像。西郷の死後21年を経た明治31年に除幕式が行われ、式典には西郷糸子(さいごういとこ)夫人や実弟である西郷従道(さいごう



上野公園入口から噴水広場へ向かう途中にある礎石(写真上:地図①)。かつてここには寛永寺(かんえいじ)の黒門が存在しました。1868年5月15日、新政府軍と旧幕府軍の彰義隊(しょうぎたい)による上野戦争では最大の激戦地と



黒門跡の近くにある清水観音堂(写真上、右)は京都市の清水寺を模した舞台造りの観音堂となっています。いまから383年前の1631年、徳川家康のプレーンとして知られる天海大僧正(てんかいだいそうじょう)により建立されました。



上野動物園(正式名称:東京都恩賜上野動物園)の手前にある小松宮彰仁親王(こまつのみやあきひとしんのう)騎馬像(写真上:地図②)。小松宮彰仁親王は奥羽征討総督として戊辰戦争の指揮を執ったことから、維新の功労者の一人とされています。維新後、社会事業の分野では日本赤十字社に貢献し、皇族による公務の原型を作りました。



現在では正岡子規記念球場(まさおかしききねんきゅうじょう)という愛称が名付けられています。球場の傍らにある石碑には「春風や まりを投げたき草の原」の句が刻まれています(写真右:地図③)。



■ アクセス  
JR上野駅下車すぐ



上野東照宮



明治時代初期、日本に初めて野球が紹介された際に熱心な愛好者であった俳人・正岡子規(まさおかしき)。明治19年から明治23年にかけて子規はこの場所で野球を楽しんでいました(写真左:地図③)。



上野を歩いて

文学を通じて野球の普及に貢献したことから、平成14年に野球殿堂入りを果たした正岡子規。子規は自身の幼名である「升(のぼる)」にちなんで、「野球(のぼる)」という雅号を用いたこともあり、「バッター」、「ランナー」、「フォアボール」、「ストレート」などの外来語を「打者」、「走者」、「四球」、「直球」等と日本語に訳したのは子規でした。現在も休日ともなれば、草野球を楽しむ愛好者たちが正岡子規記念球場に集います。